

平成18年5月の解説（週間天気予報）

【5月の天候状況】

上旬前半は日本付近が高気圧に覆われて全国的に晴れましたが後半は低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりました。中旬は低気圧や日本の南海上に停滞した前線の影響を受けて本州以南では曇りや雨の日が多くなりましたが、北海道では晴れの日が多くなりました。下旬は低気圧や前線の影響で全国的に曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、本州以南では平年より少なく、多くの観測地点で平年の80%を下回りましたが、北海道地方では平年より多く120%を上回った観測地点もありました。降水量は平年に比べて西日本と北海道地方で多く170%を上回った観測地点がありました。気温は全国的に平年より高く、1℃以上高くなった観測地点もありました。

【5月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^{（注）}と同じ69%でした。例年と比べて東海、近畿、中国地方では5から7ポイント低くなりましたが、北海道では9ポイント、沖縄では5ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃小さい2.8℃で、例年と比べて沖縄地方では0.4℃で大きくなりましたが、東北地方では0.5℃、関東甲信地方では0.6℃小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃小さい1.9℃で、特に九州北部では0.6℃、九州南部地方では0.5℃小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報から】

前線が5月11日に日本付近を通過した後、12日から13日にかけて本州の南海上付近に停滞しました（図）。東京地方に発表した週間天気予報ではこの期間、本州の南岸に前線が停滞することを予想して11日から13日まで3日間とも雨が降る予報を発表していました（表）。実際、

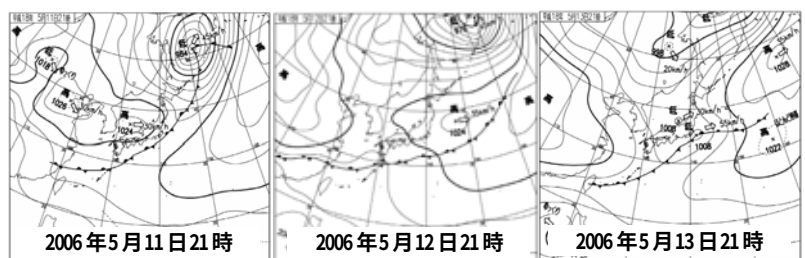


図 2006年5月11日から13日の地上天気図

概ね予想通り前線が本州南岸に停滞して、11 日と 13 日には広い範囲で雨が降りましたが、12 日には雨は降りませんでした。これは前線が一時的に南下して本州の南海上に離れ、活動が弱まったためです。

週間天気予報では、停滞前線のおおよその動向は予想できても、前線の位置の南北へのわずかな変動は正確に予想できない場合があります。このわずかな位置の違いで実際の天気は大きく変わってしまうことから、前線が停滞して曇りや雨の天気が続く予報が発表されているときには、より精度の高い最新の予報で確認していただくようお願いします。

表 2006 年 5 月 11 日から 13 日の東京の 天気の予報と実際の天気												
	予 報 発 表 日											実際の 日中の 天気
	5 月											
	4 日	5 日	6 日	7 日	8 日	9 日	10 日	11 日	12 日			
11 日												11 日
12 日												12 日
13 日												13 日

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

例年、ほとんどの地方で 7 月の中旬から下旬にかけて梅雨明けした後は晴れて暑い日が多くなりますが、梅雨明けの時期は、地方や年によって大きな違いがあります。

早々と 7 月の上旬に梅雨明けする年や、8 月になっても夏らしい晴れて暑い日が続かず、梅雨明けを特定できない年もあります。

2001 年の梅雨明けは例年とは違って、東日本の梅雨明けが西日本の梅雨明けよりも早くなりました。西日本ではほぼ平年並みに梅雨明けしましたが、東日本、北日本では東北地方北部を除いて平年より 20 日程度も早い

表 2001 年と平年の梅雨明け日		
地方名	2001 年	平年日
東北北部	—	7 月 27 日ごろ
東北南部	7 月 7 日ごろ	7 月 23 日ごろ
北陸	7 月 2 日ごろ	7 月 22 日ごろ
関東甲信	7 月 1 日ごろ	7 月 20 日ごろ
東海	7 月 2 日ごろ	7 月 20 日ごろ
近畿	7 月 19 日ごろ	7 月 19 日ごろ
中国	7 月 19 日ごろ	7 月 20 日ごろ
四国	7 月 19 日ごろ	7 月 17 日ごろ
九州北部	7 月 19 日ごろ	7 月 18 日ごろ
九州南部	7 月 20 日ごろ	7 月 13 日ごろ
奄美	6 月 23 日ごろ	6 月 28 日ごろ
沖縄	6 月 21 日ごろ	6 月 23 日ごろ

「—」は、梅雨明けの時期がはつきしなかったため、特定しなかった場合を表します。

7 月の初めに梅雨明けしました。

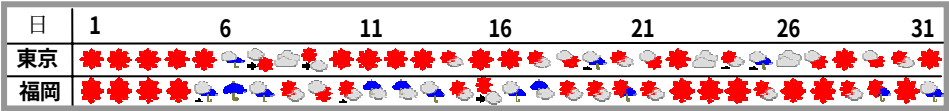


図 2001 年 7 月の東京と福岡の天気経過（日中の天気）

一方、東北地方北部では 8 月に入っても低気圧や前線の影響を受けることが多く、結局梅雨明けの日を特定することができませんでした。

7 月は梅雨が明けるまでは梅雨前線の影響で雨や曇りの日が続きますが、梅雨が明ければ一転して太平洋高気圧に覆われて、晴れて暑い真夏の日が続きます。梅雨前線や太平洋高気圧の動向は地方や年によって大きく違いますので、レジャーの計画や健康管理などには週間天気予報を有効に利用して下さい。